

11月の中小企業月次景況調査

〔平成30年11月末現在〕

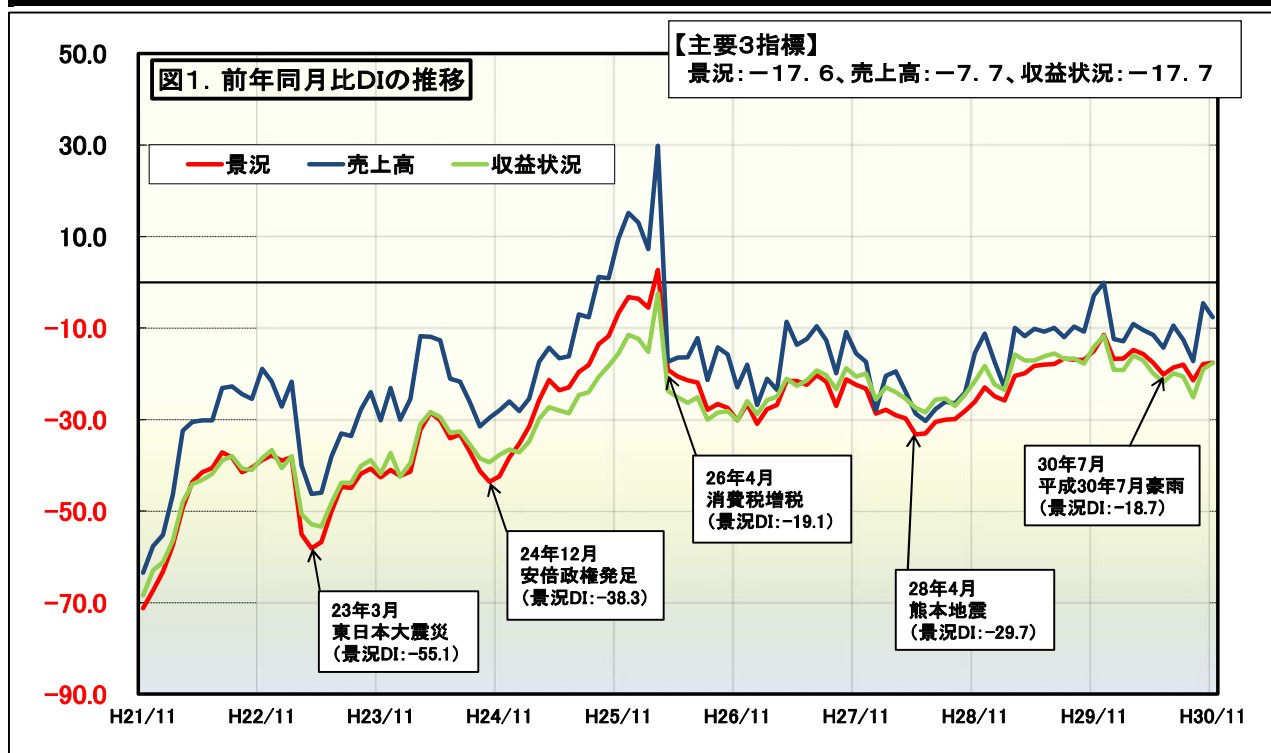


全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

平成30年12月20日発表

◎11月のDIは、9指標中5指標が悪化。主要3指標については、景況と収益状況が上昇したが、売上高が3.1ポイント悪化した。

- 当月は、原油価格の下落による経営コストの低下や、天候に恵まれたこと等から、全体の景況DIが0.3ポイント上昇した。
- 一方で、暖冬予測に伴い冬物商品の販売が低調となったこと等により、非製造業を中心に売上高DIが3.1ポイント悪化した。
- 原材料費・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力は引き続き強く、人手不足の慢性化も深刻な状況であり、機会損失や納期遅れに繋がっている。
- 消費増税や働き方改革への対応を懸念する声も多く、中小企業の先行きは引き続き注視していく必要がある。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)

全国中小企業団体中央会

担当：政策推進部

TEL 03-3523-4902

<https://www.chuokai.or.jp>

11月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

- 11月のD Iは、9指標中5指標が前月比で悪化。
- 主要3D Iについては、景況と収益状況が上昇したが、売上高については、非製造業の大幅な悪化が影響し、全体で3.1ポイント悪化。
- 雇用人員D Iは前月比0.5ポイント上昇の-8.3ポイント。7カ月振りの上昇となったが、厳しい雇用環境が続いており、広範な業種において人手不足が慢性化している。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

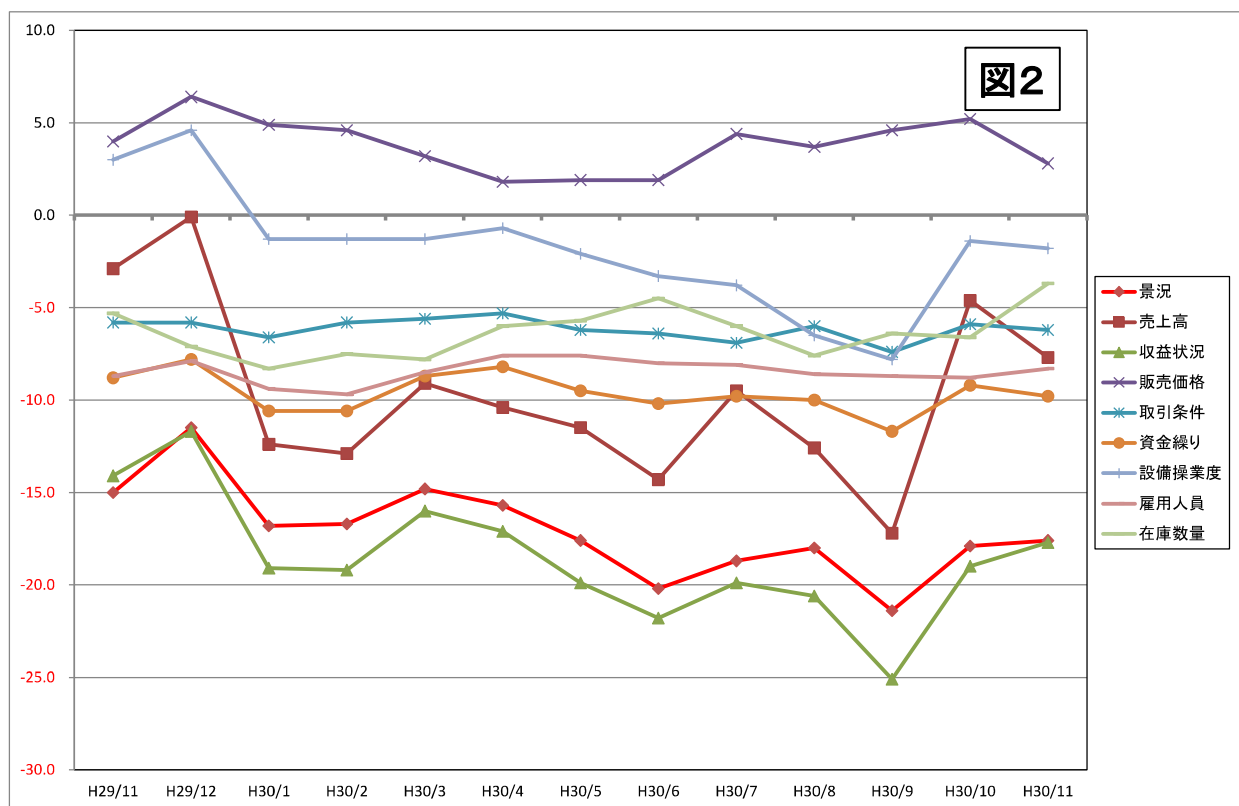


表1	H29 11月	12月	1月	2月	3月	H30 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比
景況	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-17.9	-17.6	0.3
売上高	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-17.2	-4.6	-7.7	-3.1
収益状況	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-25.1	-19.0	-17.7	1.3
販売価格	4.0	6.4	4.9	4.6	3.2	1.8	1.9	1.9	4.4	3.7	4.6	5.2	2.8	-2.4
取引条件	-5.8	-5.8	-6.6	-5.8	-5.6	-5.3	-6.2	-6.4	-6.9	-6.0	-7.4	-5.9	-6.2	-0.3
資金繰り	-8.8	-7.8	-10.6	-10.6	-8.7	-8.2	-9.5	-10.2	-9.8	-10.0	-11.7	-9.2	-9.8	-0.6
設備操業度	3.0	4.6	-1.3	-1.3	-1.3	-0.7	-2.1	-3.3	-3.8	-6.5	-7.8	-1.4	-1.8	-0.4
雇用人員	-8.7	-7.9	-9.4	-9.7	-8.5	-7.6	-7.6	-8.0	-8.1	-8.6	-8.7	-8.8	-8.3	0.5
在庫数量	-5.3	-7.1	-8.3	-7.5	-7.8	-6.0	-5.7	-4.5	-6.0	-7.6	-6.4	-6.6	-3.7	2.9

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 主要3指標は、景況と収益状況が上昇。売上高が3.1ポイント悪化。その他指標については、雇用人員と在庫数量を除く全指標が悪化した。
2. 原油価格の下落による経営コストの低下や、天候に恵まれたことが景況感を押し上げた一方で、暖冬予測に伴い冬物商品の販売が低調となったこと等により、売上高D Iは悪化した。
3. 原材料費・人件費・燃料費等の経営コスト上昇圧力は引き続き強く、人手不足の慢性化も深刻な状況であり、機会損失や納期遅れに繋がっている。
4. 消費増税や働き方改革への対応を懸念する声も多く聞かれた。

《主な報告内容》

◇原油価格下落の影響

- ・売上・収益ともに前月より増加しており、前年同月比でも売上は増加となっている。燃料価格が値下がりしたおかげで収益状況は多少回復している。(秋田県／トラック)
- ・原油価格が急激に下落し、卸価格も下がっている。小売市場は以前と比べ販売しやすい状況である。(山梨県／ガソリンスタンド)
- ・10月後半から原油価格が下がり、ガソリン価格も下げ傾向になったことから、ガソリン出荷量も回復傾向に転じた。今後の予測が難しいものの、当組合員にとっては朗報である。(神奈川県／石油製品)
- ・原油安を受けて元売りの仕切も値下げが続いたため、販売業界のマージンは良化傾向を示している。しかし、一方で暖冬による悪影響で、灯油販売が絶不調で資金繰りを圧迫した。(鹿児島県／石油販売)

◇天候・暖冬予測の影響

- ・紅葉シーズンのこの時期としては暖かく、イベントや好天に恵まれた下旬の3連休などの効果で、前年同月より旅客数、売上ともに増加。11月の旅客数・売上は東日本大震災以降の最高数値となった。(宮城県／観光旅客海運)
- ・天気も安定しており、仕事は順調である。仕事の受注は、建設業者からの受注は順調であるが、個人からの受注は競争が激しく大変である。(埼玉県／建設)
- ・気温の高い日が続き、アウター衣料を中心に冬物が売れず、売上高は大きく下がった。(東京都／小売)
- ・11月は温暖な気候とともに生乳需給事情も安定し、学校給食用牛乳の供給並びに市販牛乳等の製造は落ち着きを取り戻した。(岐阜県／牛乳製造)
- ・天候が安定し例年より気温が高く、入込数が増加傾向で推移した事もあり、売上高は前月比で増加した。(鳥取県／観光)

◇人手不足の慢性化

- ・受注は確保できているが、人手不足により残業等が増加。売上高の増加以上に人件費が嵩んでいる。働き方改革による取り組みは経営を圧迫しかねないと懸念している。(山梨県／電気機器)
- ・業界としての景況が、僅かではあるが好転し、受注が増えてきた。現場作業員不足により、外国人を採用し対応している企業が増えている。(東京都／包装資材)
- ・先月に続き前年同月を上回る受注売上を達成しており、好調ではあるが、人材不足のための受注ロスが増加傾向にあって、人材確保が急務の状況である。(愛知県／警備)
- ・荷動き活発で売上が増加基調。コスト増に伴う運賃値上げ交渉が進んでいるが、運転者不足による車両不足は恒久化。(滋賀県／貨物運輸)
- ・職人不足が全国的に蔓延しており景況は悪化傾向にある。人手不足が深刻であり、高齢者(60歳以上)の頑張りで業界が持っている。(岡山県／建設)
- ・相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材(幹部候補生)の獲得が大きな課題であるが、最近では、技術者不足も如実に表れてきた。(徳島県／繊維)

※後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告(要旨)」等も参照。

1. 景 況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 17.9	▲ 17.6	0.3	上昇	↗
製造業	▲ 16.1	▲ 16.4	▲ 0.3	悪化	↘
非製造業	▲ 19.3	▲ 18.4	0.9	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	食料品			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	印刷、一般機器、輸送機器			

表2. 業種別【景 況】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	30/10	30/11	前月比
全 体	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-17.9	-17.6	0.3
製 造 業	-8.8	-7.4	-11.6	-13.4	-11.5	-12.4	-12.1	-16.1	-17.1	-15.4	-19.9	-16.1	-16.4	-0.3
食料品	-21.7	-19.1	-27.0	-29.8	-25.6	-27.2	-26.3	-30.1	-32.6	-32.3	-33.6	-32.1	-24.5	7.6
繊維工業	-25.4	-22.1	-27.0	-17.8	-20.7	-19.3	-19.3	-24.0	-27.5	-23.4	-33.9	-29.1	-26.9	2.2
木材・木製品	-21.4	-21.1	-25.5	-28.1	-28.8	-28.7	-24.1	-23.9	-28.4	-24.8	-35.9	-23.5	-22.2	1.3
紙・紙加工品	-8.4	-9.6	-14.3	-33.3	-16.7	-27.3	-33.3	-34.8	-42.9	-39.2	-42.8	-45.5	-47.3	-1.8
印刷	-33.9	-29.5	-29.5	-29.5	-30.1	-37.1	-46.7	-40.3	-43.5	-39.0	-45.9	-45.8	-52.5	-6.7
化学・ゴム	-3.5	3.5	3.5	3.3	6.9	0.0	0.0	-3.4	-17.3	-6.9	-10.4	-17.3	-17.2	0.1
窯業・土石製品	-8.7	-14.8	-23.0	-32.1	-23.5	-16.4	-20.4	-25.2	-23.0	-23.4	-26.5	-13.5	-14.0	-0.5
鉄鋼・金属	17.1	20.1	17.4	20.6	19.3	20.8	17.2	10.1	7.5	12.6	8.8	8.9	7.2	-1.7
一般機器	20.1	19.4	23.0	15.0	15.0	16.0	15.9	10.7	12.5	10.6	7.1	8.9	-0.9	-9.8
電気機器	22.8	25.0	11.4	23.6	18.1	6.1	26.7	18.7	21.2	12.9	15.1	15.1	18.2	3.1
輸送機器	2.5	2.4	7.5	2.4	2.5	-5.0	2.5	-7.3	2.4	0.0	2.6	0.0	-7.3	-7.3
その他の製造業	-27.7	-18.8	-23.1	-28.8	-20.7	-32.1	-24.0	-28.3	-19.2	-20.3	-19.6	-22.0	-26.9	-4.9
非 製 造 業	-19.6	-14.7	-20.7	-19.3	-17.5	-18.2	-21.7	-23.3	-20.0	-20.0	-22.5	-19.3	-18.4	0.9
卸 売 業	-21.2	-14.2	-20.6	-19.2	-20.0	-24.9	-24.0	-28.1	-21.5	-20.9	-22.1	-23.5	-22.8	0.7
小 売 業	-35.9	-27.9	-30.3	-28.6	-28.1	-27.9	-28.1	-27.8	-25.2	-26.6	-32.7	-28.1	-28.2	-0.1
商 店 街	-31.5	-23.1	-35.2	-38.7	-31.7	-30.7	-33.3	-36.8	-41.1	-37.9	-44.5	-35.1	-36.7	-1.6
サ ー ビ ス 業	-10.4	-10.2	-15.2	-14.2	-8.9	-6.8	-13.1	-17.1	-17.1	-14.8	-16.5	-8.0	-8.2	-0.2
建 設 業	-0.9	-0.4	-6.7	-2.5	-3.8	-8.4	-10.5	-9.6	2.1	-3.3	-2.1	-0.8	2.4	3.2
運 輸 業	-14.1	-7.6	-16.7	-13.9	-10.5	-10.0	-27.3	-28.2	-23.7	-20.6	-23.2	-31.3	-27.9	3.4
その他の非製造業	-17.9	-7.4	-11.1	-3.7	-17.9	-11.1	-10.7	-7.2	-21.4	-22.2	-3.7	-3.8	0.0	3.8

Pick up!

「食料品」：天候に恵まれたことが製造・販売双方に影響し、主要3指標全てが上昇（景況は前月比7.6ポイント上昇）。景況感は、夏以降の自然災害発生前の水準まで回復した。

「一般機器」：引き続き好調との声も多いが、一部機器で生産調整が発生している影響等から、景況DIは前月比9.8ポイント悪化の▲0.9とマイナスに転じた。

2. 売 上 高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 4.6	▲ 7.7	▲ 3.1	悪化	↘
製造業	▲ 3.4	▲ 3.6	▲ 0.2	悪化	↘
非製造業	▲ 5.6	▲ 11.0	▲ 5.4	悪化	↘
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	紙・紙加工品、化学・ゴム			
	5～10ポイント	食料品、印刷、鉄鋼・金属			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	一般機器、小売業			
	5～10ポイント	窯業・土石製品、電気機器、輸送機器、卸売業、商店街			

表3. 業種別【売上高】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	30/10	30/11	前月比
全 体	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	-10.4	-11.5	-14.3	-9.5	-12.6	-17.2	-4.6	-7.7	-3.1
製 造 業	3.5	4.1	-6.6	-6.2	-3.5	-6.3	-3.9	-7.1	-7.9	-11.1	-17.1	-3.4	-3.6	-0.2
食料品	-7.4	-4.0	-21.5	-27.8	-13.9	-20.6	-18.7	-26.5	-28.6	-31.3	-35.7	-24.8	-17.3	7.5
繊維工業	-7.9	-13.1	-13.9	-9.7	-10.3	-17.7	-16.3	-16.0	-16.1	-12.1	-22.5	-15.3	-16.6	-1.3
木材・木製品	-11.1	-16.0	-19.4	-26.4	-20.3	-13.9	-20.5	-21.2	-23.2	-27.4	-30.7	-16.5	-12.9	3.6
紙・紙加工品	4.2	9.6	14.3	-23.8	-20.9	0.0	4.1	-4.4	-14.3	-8.7	-38.1	-9.1	5.2	14.3
印刷	-24.2	-18.0	-41.0	-34.5	-19.0	-35.5	-41.7	-38.7	-38.7	-45.8	-52.4	-42.4	-34.4	8.0
化学・ゴム	20.7	31.1	17.2	30.0	31.0	0.0	25.0	24.2	6.9	-3.4	10.4	-3.4	17.3	20.7
窯業・土石製品	-2.9	-4.4	-32.6	-27.7	-22.8	-7.4	-5.3	-10.4	-15.6	-14.6	-25.8	11.2	2.2	-9.0
鉄鋼・金属	26.4	33.0	25.3	26.4	25.7	32.1	27.6	24.5	29.6	22.4	11.7	16.3	22.9	6.6
一般機器	38.6	37.2	32.8	24.8	28.3	16.0	21.4	21.2	25.9	20.3	7.0	24.8	8.8	-16.0
電気機器	31.4	19.4	25.7	34.2	18.2	9.1	40.0	3.2	27.2	-9.7	15.2	24.3	15.1	-9.2
輸送機器	7.5	7.3	12.5	2.4	12.1	0.0	12.2	9.8	-2.4	4.7	10.3	22.0	17.0	-5.0
その他の製造業	-14.8	-7.5	-21.1	-19.2	-18.9	-32.1	-27.7	-18.9	-21.2	-25.9	-19.6	-12.0	-13.4	-1.4
非 製 造 業	-7.7	-3.4	-16.8	-16.4	-13.2	-13.7	-17.4	-19.7	-10.8	-13.8	-17.3	-5.6	-11.0	-5.4
卸 売 業	-6.0	6.0	-11.4	-11.4	-6.4	-18.9	-14.8	-21.0	-1.8	-7.4	-17.1	1.0	-6.5	-7.5
小 売 業	-21.1	-8.0	-18.6	-16.0	-25.2	-26.6	-23.7	-28.4	-9.5	-13.9	-23.7	-13.0	-27.7	-14.7
商 店 街	-18.8	-16.5	-33.3	-41.0	-21.5	-18.1	-29.1	-26.4	-34.2	-39.7	-41.3	-23.5	-29.1	-5.6
サービス業	-4.0	-8.0	-22.0	-19.4	-6.7	-5.1	-15.3	-17.5	-21.1	-13.0	-14.1	2.9	-1.1	-4.0
建 設 業	3.3	-3.8	-10.6	-5.4	-14.7	-8.5	-8.9	-11.4	1.2	-5.0	-4.2	0.4	3.0	2.6
運 輸 業	11.2	20.6	-0.8	-10.7	0.0	3.1	-12.8	-10.7	-5.3	-8.4	-8.6	-10.9	-7.7	3.2
その他の非製造業	-14.3	-7.4	-18.5	0.0	7.1	7.4	-3.6	0.0	10.7	-22.2	14.8	26.9	29.6	2.7

Pick up!

「化学・ゴム」：自然災害の影響が一段落したことに加え、原油価格が下落したこと等が売上増につながり、**前月比20.7ポイント上昇**。但し、原材料や労務費の価格転嫁は困難との声が多い。

「小売業」：原油価格の乱高下、暖冬による冬物商品・食材の買い控え、好天による野菜単価下落等により、売上高DIは**前月比14.7ポイント悪化**した。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 19.0	▲ 17.7	1.3	上昇	↗
製造業	▲ 18.5	▲ 16.8	1.7	上昇	↗
非製造業	▲ 19.3	▲ 18.4	0.9	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	化学・ゴム			
	5～10ポイント	食料品、木材・木製品、運輸、その他の非製造業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	電気機器			

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業 種 名	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	30/4	30/5	30/6	30/7	30/8	30/9	30/10	30/11	前月比
全 体	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	-17.1	-19.9	-21.8	-19.9	-20.6	-25.1	-19.0	-17.7	1.3
製 造 業	-9.7	-8.6	-15.2	-15.8	-13.7	-14.5	-13.5	-16.9	-18.1	-19.0	-24.7	-18.5	-16.8	1.7
食料品	-19.7	-16.1	-25.0	-29.8	-23.1	-24.6	-23.7	-28.1	-37.2	-33.9	-36.2	-31.6	-25.5	6.1
繊維工業	-17.5	-18.8	-23.0	-15.3	-17.5	-25.3	-27.9	-25.6	-24.2	-22.6	-33.1	-25.8	-23.1	2.7
木材・木製品	-22.3	-24.4	-29.7	-32.3	-31.3	-20.9	-25.9	-32.7	-25.0	-23.9	-34.2	-31.4	-25.7	5.7
紙・紙加工品	-25.0	-14.3	-38.1	-57.1	-54.1	-36.4	-41.6	-39.2	-42.8	-52.2	-52.3	-50.0	-52.6	-2.6
印刷	-29.1	-19.7	-27.9	-26.2	-22.3	-37.1	-33.4	-38.7	-43.5	-52.5	-52.5	-40.7	-37.7	3.0
化学・ゴム	-10.4	-6.9	-3.4	-3.3	-13.8	-17.2	-5.6	-17.2	-31.1	-31.0	-41.4	-44.9	-31.0	13.9
窯業・土石製品	-8.0	-8.8	-29.6	-28.4	-15.4	-14.2	-9.1	-14.0	-16.3	-15.4	-25.7	-7.5	-10.3	-2.8
鉄鋼・金属	6.4	5.7	7.2	6.6	5.0	7.9	5.6	5.0	14.1	2.8	-0.8	3.7	7.9	4.2
一般機器	17.6	17.7	14.1	8.0	8.9	8.8	8.4	5.3	4.5	8.9	-3.5	2.7	-1.7	-4.4
電気機器	20.0	13.9	8.5	15.8	3.0	0.0	3.4	3.1	-3.0	-16.1	3.1	3.1	-6.0	-9.1
輸送機器	-2.5	-4.9	0.0	7.4	7.3	-2.5	12.2	-2.5	-9.8	-11.6	-5.1	-9.8	-14.6	-4.8
その他の製造業	-25.9	-18.8	-21.1	-21.1	-20.8	-26.4	-22.2	-20.7	-21.1	-20.3	-25.5	-24.0	-28.9	-4.9
非 製 造 業	-17.5	-14.1	-22.0	-21.8	-17.8	-19.1	-24.9	-25.7	-21.4	-22.0	-25.4	-19.3	-18.4	0.9
卸 売 業	-14.7	-11.5	-17.4	-15.5	-16.8	-19.8	-22.1	-27.1	-13.6	-18.1	-20.8	-16.3	-14.9	1.4
小 売 業	-33.0	-21.7	-27.7	-29.2	-27.8	-26.1	-28.9	-31.6	-25.2	-25.2	-35.6	-28.4	-28.0	0.4
商 店 街	-27.2	-23.2	-35.2	-38.7	-25.1	-25.0	-27.8	-32.5	-36.0	-34.2	-40.7	-26.7	-29.8	-3.1
サ ー ビ ス 業	-6.5	-12.3	-19.9	-17.5	-10.7	-13.1	-24.8	-21.4	-21.9	-18.4	-21.5	-10.2	-12.5	-2.3
建 設 業	-1.2	-3.0	-8.4	-8.0	-7.1	-11.0	-15.2	-13.9	-6.9	-12.6	-7.2	-5.0	-2.5	2.5
運 輸 業	-23.1	-11.4	-26.5	-27.0	-19.5	-21.6	-34.8	-33.6	-31.2	-29.0	-33.3	-39.9	-31.8	8.1
その他の非製造業	-14.3	-11.1	-25.9	-14.8	-14.3	-11.1	-14.3	-7.2	-17.9	-25.9	-7.4	-7.7	0.0	7.7

Pick up!

「運輸業」：原油価格の下落が収益改善に繋がり、景況感は前月比8.1ポイント上昇。主要3指標は全て上昇したが、ドライバー不足の慢性化が深刻な状況となっている。

「電気機器」：受注は底堅いものの、人手不足の深刻化により収益状況が悪化。収益状況DIは前月比9.1ポイント悪化し、主要3指標で唯一のマイナスとなった。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 9.2	▲ 9.8	▲ 0.6	悪化	↘
製造業	▲ 6.1	▲ 7.9	▲ 1.8	悪化	↘
非製造業	▲ 11.5	▲ 11.4	0.1	上昇	↗
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	5.2	2.8	▲ 2.4	悪化	↘
製造業	2.9	3.2	0.3	上昇	↗
非製造業	7.0	2.6	▲ 4.4	悪化	↘
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 5.9	▲ 6.2	▲ 0.3	悪化	↘
製造業	▲ 4.8	▲ 5.1	▲ 0.3	悪化	↘
非製造業	▲ 6.8	▲ 6.9	▲ 0.1	悪化	↘
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 1.4	▲ 1.8	▲ 0.4	悪化	↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 8.8	▲ 8.3	0.5	上昇	↗
製造業	▲ 4.2	▲ 4.6	▲ 0.4	悪化	↘
非製造業	▲ 12.2	▲ 11.2	1.0	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 6.6	▲ 3.7	2.9	上昇	↗
製造業	▲ 4.9	▲ 2.9	2.0	上昇	↗
非製造業	▲ 9.0	▲ 4.9	4.1	上昇	↗

~~Calendar 2018 国内外の主なトピックス (平成30年12月)~~

12月2日(日)

G20首脳会議(サミット)が首脳宣言を採択し閉幕。昨年の宣言で明記した「保護主義と闘う」との文言はトランプ米政権の反対で削除された。

12月2日(日)

トランプ米大統領と中国の習近平国家主席が会談。新たな通商協議を開始し、米側が来年1月に予定していた追加関税率引き上げを90日間凍結することで合意。

12月3日(月)

7~9月期法人企業統計(財務省):金融・保険業を除く全産業の設備投資が前年同期比4.5%増の11兆2784億円となり、8四半期連続で増加。経常利益は2.2%増の18兆2847億円で、9四半期連続の増加。

12月7日(金)

10月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上)(厚生労働省):10月の名目賃金にあたる1人あたりの現金給与総額は前年同月比1.5%増の27万1333円。増加は15カ月連続。基本給の増加が続いた。

12月7日(金)

10月の景気動向指数速報値(内閣府):景気の現状を示す一致指数が前月比2.9ポイント上昇の104.5。上昇は2カ月ぶり、上昇幅は29年7カ月ぶりの大きさ。

12月8日(土)

日本と欧州連合(EU)の経済連携協定(EPA)が8日未明の参院本会議で自民、公明両党などの賛成多数で可決、承認。2019年2月1日に発効する公算が大きくなった。世界で最大級の自由貿易圏が誕生する。

12月8日(土)

改正出入国管理法が8日未明の参院本会議で自民、公明両党と日本維新の会などの賛成多数で可決、成立。

12月10日(月)

11月景気ウォッチャー調査(街角景気)(内閣府):現状の景況感を示す指数(季節調整値)は前月比1.5ポイント上昇し、51.0。上昇は2カ月連続で、節目の50を上回ったのは17年12月以来。

12月10日(月)

第197臨時国会が閉幕。政府が新規に提出した法案13本はすべて成立した。

12月10日(月)

7~9月期の国内総生産(GDP)改定値:物価変動の影響を除いた実質で前期比0.6%減、年率換算で2.5%減。設備投資を要因に11月速報値から大幅に下方修正。

12月12日(水)

10月の機械受注統計(内閣府):「船舶・電力を除く民需」の受注額は前月比7.6%増の8632億円と2カ月ぶりに増加。基調判断は「持ち直しの動きがみられる」から「持ち直しの動きに足踏みがみられる」に4カ月振りに下方修正。

12月14日(金)

2019年度与党税制改正大綱:19年10月の消費税の税率10%引き上げに伴う反動減対策を重視し、車と住宅の減税措置を拡充。個人事業主用事業承継税制も創設。

12月14日(金)

全国企業短期経済観測調査(短観):大企業製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)は4期ぶりに下げ止まり、前回9月調査から横ばいのプラス19。

12月28日(金)

11月失業率、有効求人倍率、鉱工業生産(速報値)等発表予定

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(平成30年10月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全	-17.9	-4.6	-19.0	5.2	-5.9	-9.2	-1.4	-8.8	-6.6
製造業	-16.1	-3.4	-18.5	2.9	-4.8	-6.1	-1.4	-4.2	-4.9
非製造業	-19.3	-5.6	-19.3	7.0	-6.8	-11.5		-12.2	-9.0

(製造業)

業種名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食料品	-32.1	-24.8	-31.6	-1.0	-5.2	-14.5	-12.9	-12.4	-2.0
繊維工業	-29.1	-15.3	-25.8	0.8	-6.5	-12.1	-11.3	-13.7	-17.0
木材・木製品	-23.5	-16.5	-31.4	3.5	-6.1	-13.1	-10.5	-7.8	-10.4
紙・紙加工品	-45.5	-9.1	-50.0	27.3	-13.6	-22.8	-36.4	-22.7	22.8
印刷	-45.8	-42.4	-40.7	-20.3	-22.0	-20.3	-30.5	-22.0	-8.5
化学・ゴム	-17.3	-3.4	-44.9	3.5	-10.4	-6.9	-6.9	6.9	10.3
窯業・土石製品	-13.5	11.2	-7.5	19.4	-3.7	0.0	4.5	-8.2	-5.2
鉄鋼・金属	8.9	16.3	3.7	11.1	0.0	8.1	23.7	12.6	-0.7
一般機器	8.9	24.8	2.7	0.0	2.6	2.6	14.1	6.2	-5.4
電気機器	15.1	24.3	3.1	0.0	6.1	3.1	27.2	27.3	12.1
輸送機器	0.0	22.0	-9.8	-14.6	-2.5	4.9	7.3	2.4	-2.5
その他の製造業	-22.0	-12.0	-24.0	-6.0	-10.0	-8.0	-4.0	-2.0	-12.0

(非製造業)

業種名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸売業	-23.5	1.0	-16.3	12.9	-8.1	-5.8		-7.2	-6.7
小売業	-28.1	-13.0	-28.4	15.7	-13.8	-21.2		-15.0	-9.7
商店街	-35.1	-23.5	-26.7	-1.2	-10.2	-19.8		-12.7	-10.8
サービス業	-8.0	2.9	-10.2	1.8	-1.8	-9.1		-12.7	
建設業	-0.8	0.4	-5.0	0.8	-3.4	-1.2		-5.9	
運輸業	-31.3	-10.9	-39.9	8.6	0.0	-12.5		-25.0	
	-3.8	26.9	-7.7	0.0	0.0	3.9		-3.8	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(平成 30年 10月 末現在)

(単位: %)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全 体	製造業	7.8	66.6	25.7	24.0	47.4	28.6	9.8	61.4	23.8	12.5	80.3	7.3	2.3	89.5	8.2	4.1	82.6	13.3	14.9	68.8	16.3	5.0	81.2	13.8	9.1	75.2	15.7
	非製造業	9.3	65.4	25.4	23.8	49.0	27.2	10.3	60.9	23.8	9.4	84.2	6.5	2.3	90.6	7.1	5.6	82.6	11.7	14.9	68.8	16.3	7.7	80.3	11.9	9.6	75.9	14.5
製造業	化学・ゴム	6.6	67.5	25.9	24.1	46.2	29.7	9.5	61.3	23.8	14.9	77.3	7.9	2.3	88.6	9.1	3.0	82.5	14.5	0.0	0.0	0.0	2.9	81.9	15.1	8.4	74.2	17.4

(製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食料品	繊維工業	2.6	62.7	34.7	13.0	49.2	37.8	5.7	57.0	37.3	4.7	89.6	5.7	1.0	92.7	6.2	2.1	81.3	16.6	7.3	72.5	20.2	3.1	81.3	15.5	10.4	77.2	12.4
	木材・木製品	3.5	69.6	27.0	13.9	55.7	30.4	4.3	60.0	35.7	13.9	75.7	10.4	1.7	90.4	7.8	1.7	83.5	14.8	7.8	73.9	18.3	5.2	81.7	13.0	11.3	67.0	21.7
紙・紙加工品	印刷	4.5	45.5	50.0	27.3	36.4	36.4	0.0	50.0	50.0	31.8	63.6	4.5	0.0	86.4	13.6	4.5	68.2	27.3	4.5	54.5	40.9	0.0	77.3	22.7	27.3	68.2	4.5
	化学・ゴム	0.0	54.2	45.8	3.4	50.8	45.8	3.4	52.5	44.1	0.0	79.7	20.3	0.0	78.0	22.0	0.0	79.7	20.3	3.4	62.7	33.9	0.0	78.0	22.0	3.4	84.7	11.9
窯業・土石製品	鉄鋼・金属	10.3	62.1	27.6	27.6	41.4	31.0	3.4	48.3	48.3	13.8	75.9	10.3	3.4	82.8	13.8	3.4	86.2	10.3	17.2	58.6	24.1	20.7	65.5	13.8	24.1	62.1	13.8
	一般機器	11.9	62.7	25.4	40.3	30.6	29.1	17.9	56.7	25.4	21.6	76.1	2.2	3.0	90.3	6.7	10.4	79.1	10.4	19.4	65.7	14.9	1.5	88.8	9.7	9.7	75.4	14.9
電気機器	輸送機器	19.3	70.4	10.4	30.4	55.6	14.1	15.6	72.6	11.9	12.6	85.9	1.5	3.0	94.1	3.0	9.6	88.9	1.5	30.4	63.0	6.7	17.8	77.0	5.2	8.9	81.5	9.6
	その他の製造業	17.7	73.5	8.8	36.3	52.2	11.5	17.7	67.3	15.0	2.7	94.7	2.7	3.5	95.6	0.9	9.7	83.2	7.1	22.1	69.9	8.0	13.3	79.6	7.1	8.8	77.0	14.2
その他の製造業	電気機器	24.2	66.7	9.1	45.5	33.3	21.2	27.3	48.5	24.2	6.1	87.9	6.1	6.1	93.9	0.0	15.2	72.7	12.1	33.3	60.6	6.1	27.3	72.7	0.0	21.2	68.7	9.1
	輸送機器	12.2	75.6	12.2	36.6	48.8	14.6	7.3	75.6	17.1	0.0	85.4	14.6	7.3	82.9	9.8	7.3	90.2	2.4	19.5	68.3	12.2	19.5	63.4	17.1	2.4	92.7	4.9
その他の製造業	化学・ゴム	10.0	58.0	32.0	20.0	48.0	32.0	6.0	64.0	30.0	2.0	90.0	8.0	0.0	90.0	10.0	2.0	88.0	10.0	8.0	80.0	12.0	2.0	94.0	4.0	6.0	76.0	18.0

(非製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸売業	小売業	6.2	64.1	29.7	29.2	42.6	28.2	10.0	63.6	26.3	24.4	64.1	11.5	1.9	88.0	10.0	3.8	86.6	9.6				4.8	83.3	12.0	12.4	68.4	19.1
	商店街	4.1	63.7	32.2	26.8	33.3	39.8	8.8	54.0	37.2	26.3	63.1	10.6	0.9	84.4	14.7	2.1	74.6	23.3				1.5	82.0	16.5	7.7	74.9	17.4
サービス業	建設業	2.5	59.9	37.6	9.6	57.3	33.1	5.1	63.1	31.8	6.4	86.0	7.6	1.3	87.3	11.5	1.9	76.4	21.7				1.3	84.7	14.0	4.5	80.3	15.3
	運輸業	10.5	71.0	18.5	27.9	47.1	25.0	13.0	63.8	23.2	6.9	88.0	5.1	3.3	91.7	5.1	2.9	85.1	12.0				3.6	80.1	16.3			
その他の非製造業	建設業	10.5	78.2	11.3	23.1	54.2	22.7	9.7	75.6	14.7	7.1	86.6	6.3	2.9	90.8	6.3	3.8	91.2	5.0				3.8	86.6	9.7			
	運輸業	3.1	62.5	34.4	18.0	53.1	28.9	7.8	44.5	47.7	11.7	85.2	3.1	5.5	89.1	5.5	3.1	81.3	15.6				3.1	68.8	28.1			
その他の非製造業	化学・ゴム	7.7	80.8	11.5	34.6	57.7	7.7	7.7	76.9	15.4	11.5	76.9	11.5	0.0	100.0	0.0	7.7	88.5	3.8				0.0	96.2	3.8			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(平成 30年 10月 末現在)

〔全 国〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
業 種									
全 体	7.8	66.6	25.7	24.0	47.4	28.6	9.8	61.4	28.8
製造業	9.3	65.4	25.4	23.8	49.0	27.2	10.3	60.9	28.8
非製造業	6.6	67.5	25.9	24.1	46.2	29.7	9.5	61.8	28.8

〔近畿地方〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	7.9	60.8	31.3	20.5	50.0	29.5	-9.0	6.8	59.7
製造業	9.8	54.1	36.1	19.5	46.6	33.8	-14.3	5.3	54.9
非製造業	6.2	66.9	26.9	21.4	53.1	25.5	-4.1	8.3	27.6

滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県

〔北海道・東北地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.3	63.5	30.2	20.1	44.8	35.2	-15.1	8.0	33.0
製造業	3.9	63.6	32.6	14.7	45.0	40.3	-25.6	7.8	56.6
非製造業	7.7	63.4	28.9	23.0	44.7	32.3	-9.3	8.1	60.4

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

〔中国地方〕

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	9.1	67.8	23.1	28.9	43.0	28.1	0.8	12.4	59.9
製造業	12.3	64.0	23.7	28.9	50.0	21.1	7.8	12.3	63.2
非製造業	6.3	71.1	22.7	28.9	36.7	34.4	-5.5	12.5	57.0

〔関東・甲信越地方〕

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	7.7	69.7	22.6	27.7	47.5	24.8	2.9	12.8	62.0
製造業	9.8	68.5	21.7	28.0	46.9	25.2	2.8	13.4	63.0
非製造業	6.2	70.5	23.3	27.5	48.0	24.4	3.1	12.4	61.2

〔四国地方〕

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	9.6	63.8	26.6	20.9	50.8	28.2	-7.3	9.6	61.6
製造業	6.3	72.2	21.5	17.7	60.8	21.5	-3.8	6.3	70.9
非製造業	12.2	57.1	30.6	23.5	42.9	33.7	-10.2	12.2	54.1

〔東海・北陸地方〕

静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	9.3	68.4	22.4	25.2	50.1	24.7	0.5	9.5	62.7
製造業	11.4	67.4	21.2	29.0	51.3	19.7	9.3	11.9	60.1
非製造業	7.1	69.4	23.5	21.4	49.0	29.6	-8.2	7.1	65.3

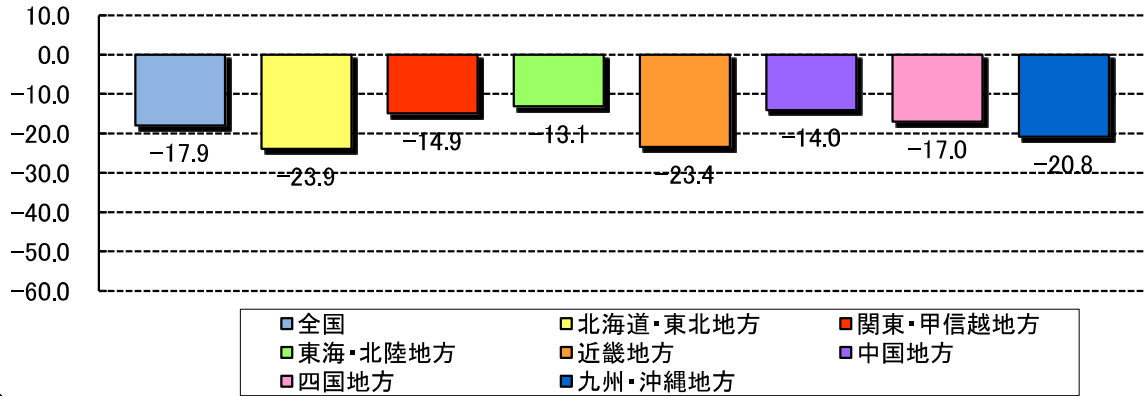
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県

〔九州・沖縄地方〕

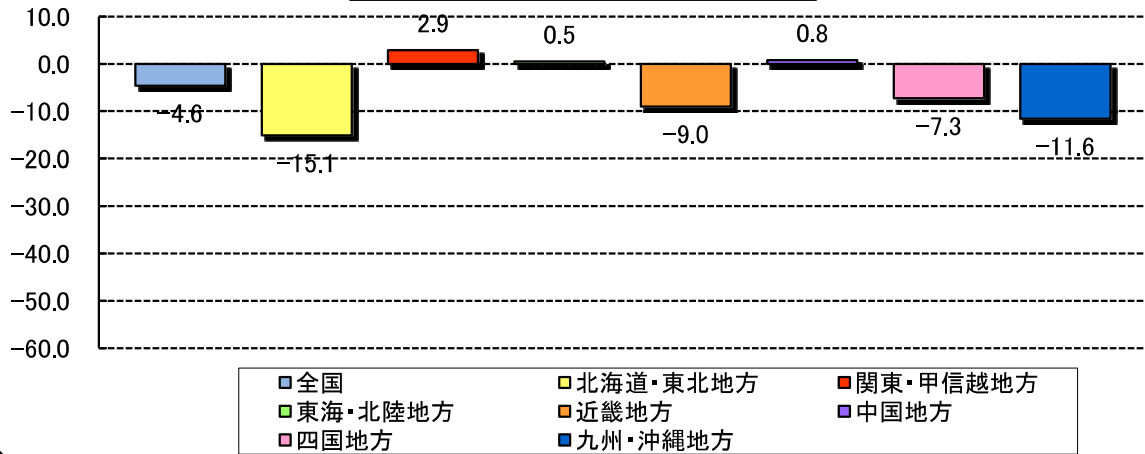
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	5.8	67.6	26.6	21.1	46.3	32.7	-11.6	7.8	63.4
製造業	8.9	66.4	24.7	20.5	48.6	30.8	-10.3	10.3	60.3
非製造業	3.7	68.4	27.9	21.4	44.7	34.0	-12.6	6.0	65.6

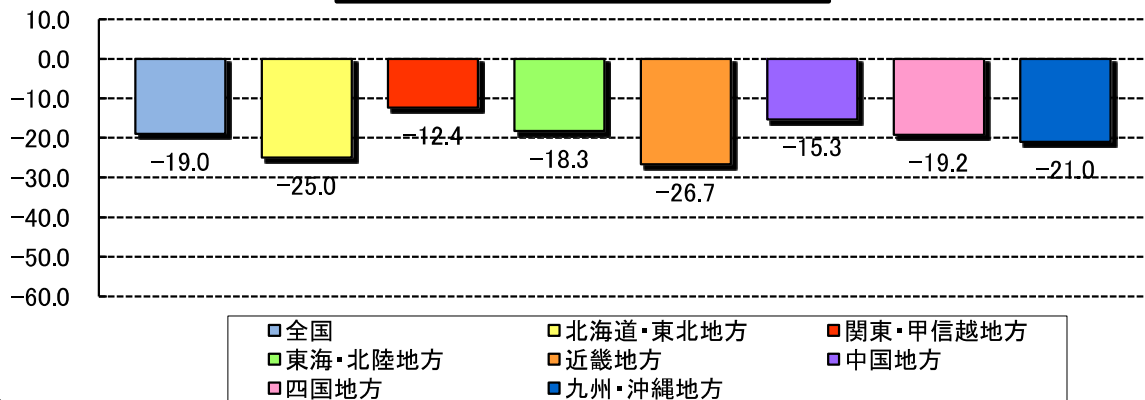
全国及び各地域別の【業況DI(全体)】
(平成30年10月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【売上高DI(全体)】
(平成30年10月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【収益状況DI(全体)】
(平成30年10月末現在・前年同月比)

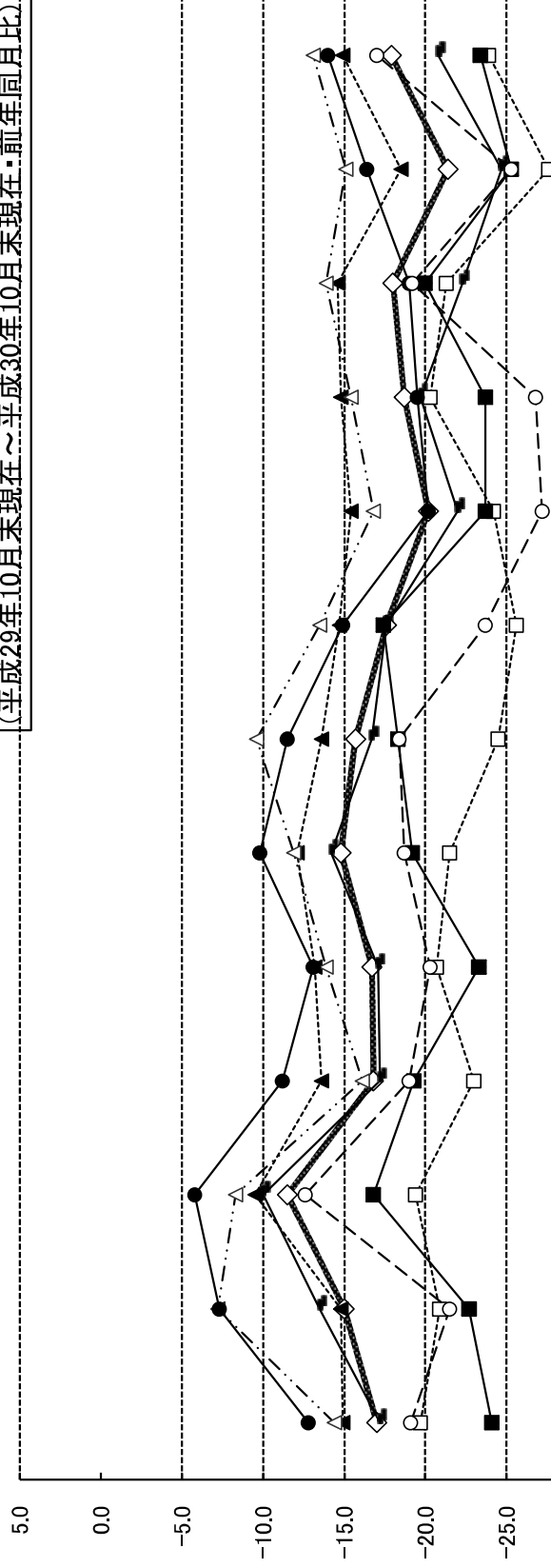


〔北海道・東北地方〕
〔関東・甲信越地方〕
〔東海・北陸地方〕
〔近畿地方〕
〔中国地方〕
〔四国地方〕
〔九州・沖縄地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
徳島県、香川県、愛媛県、高知県
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】

(平成29年10月末現在～平成30年10月末現在・前年同月比)



	10月末	11月末	12月末	30年 1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末
系列1	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	-15.7	-17.6	-20.2	-18.7	-18.0	-21.4	-17.9
系列2	-19.7	-20.9	-19.4	-23.0	-20.7	-21.5	-24.5	-25.6	-24.2	-20.3	-21.3	-27.6	-23.9
系列3	-14.9	-14.8	-9.5	-13.6	-13.2	-12.1	-13.6	-14.7	-15.4	-14.8	-14.6	-18.5	-14.9
系列4	-14.4	-7.2	-8.3	-16.1	-13.9	-11.9	-9.6	-13.5	-16.8	-15.4	-13.9	-15.1	-13.1
系列5	-24.1	-22.7	-16.8	-19.3	-23.3	-19.2	-18.3	-17.4	-23.7	-23.7	-20.0	-25.3	-23.4
系列6	-12.8	-7.3	-5.8	-11.2	-13.1	-9.8	-11.5	-14.9	-20.2	-19.5	-19.0	-16.4	-14.0
系列7	-19.1	-21.5	-12.6	-19.0	-20.3	-18.7	-18.4	-23.7	-27.2	-26.8	-19.2	-25.3	-17.0
系列8	-17.2	-13.5	-10.0	-17.2	-17.1	-14.2	-16.7	-17.6	-22.0	-19.7	-22.3	-24.7	-20.8

〔北海道・東北地方(系列2)〕 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 〔関東・甲信越地方(系列3)〕 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県
 〔東海・北陸地方(系列4)〕 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
 〔近畿地方(系列5)〕 滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
 〔中国地方(系列6)〕 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 〔四国地方(系列7)〕 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 〔九州・沖縄地方(系列8)〕 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. **＜ 福 島 県 食品団地 ＞**
今月も天候に恵まれ、観光・イベントは前年同様の参加者で推移した。しかし、原油価格が高騰し、原材料の価格も値上げしたことから、収益に大きな影響を与え難しい状況が続いている。
2. **＜ 山 梨 県 水産食料品製造業 ＞**
猛暑・自然災害の影響から、これまで受注が少なかったギフトおせち等が動き出し、前年同月比の売上は106.5%となった。
3. **＜ 岐 阜 県 牛乳 ＞**
11月は温暖な気候とともに生乳需給も安定し、学校給食用牛乳の供給並びに市販牛乳等の製造は落ち着きを取り戻した。
4. **＜ 香 川 県 醤油 ＞**
組合及び組合員の業況は回復傾向。9月まで低迷していた出荷量が回復・増加に転じている。しかし、短期的な消費動向だけでは総合的な判断はできないため、来年3月末までの出荷動向を観察したい。
5. **＜ 佐 賀 県 菓子製造 ＞**
穏やかな気候が続いたので、菓子の需要は先月より回復し、売上も好転したが、原材料、物流費など経営環境コストは上昇しているので、実感するような景況回復感がない。
6. **＜ 鹿 児 島 県 漬物製造業 ＞**
台風24号により芽がでたばかりの大根は全滅状態となったが、蒔きなおした以降は天候に恵まれたため、だいぶ回復してきた。一般野菜も良好に成長しており、前倒し出荷及びだぶつき状態となっている。

繊維・同製品製造業

7. **＜ 石 川 県 染色加工 ＞**
昨年同期との比較では、生産量とともに売上も大幅に減少。原材料ともいえる絹糸の価格が上昇しており、消費税の値上げも控えているため、非常に厳しい中での運営が続いている。
8. **＜ 福 井 県 織物業 ＞**
受注は堅調だが、アパレル全体の不振や低価格指向は不変のため、収益面は決して明るくない。廃業により加工業者が少なくなっており、リードタイムの増加や納期遅れが発生している。
9. **＜ 徳 島 県 繊維工業 ＞**
相変わらず雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材（幹部候補生）の獲得が大きな課題であるが、最近では技術者不足も如実に表れてきた。
10. **＜ 香 川 県 手袋 ＞**
今冬は暖冬見込のため、寒くても売れない状況に加えて、一大消費地の関東圏での商況が非常に悪く、大変厳しい状況が続いている。発注遅れに伴う生産遅れによる注文のキャンセルも一部で発生している。
11. **＜ 愛 媛 県 縫製 ＞**
衣料品の売れ行きは依然として伸び悩んでおり設備投資ができない。アパレルの販売価格がシーズン当初よりセールや割引を見込んだ価格設定となっており、生産工場の現状は厳しい。
12. **＜ 熊 本 県 ニット製品製造業 ＞**
暖冬で物が売れず、賃金も上昇して経営が厳しい状況である。

木材・木製品製造業

13. **＜ 北 海 道 一般製材 ＞**
11月後半より山からの原木がまとまって出材するようになり、月末には前月より少し在庫が増えている。この調子で積み増しできれば、生産効率も改善されて収益も多少改善されるものと思われる。
14. **＜ 青 森 県 製材業 ＞**
県内の新築住宅は大型工務店が主流で、地元の大工・工務店の仕事は大幅に減少。大手工務店の使う製品の大半は外材であるため、地元の製材所は量産できないことから厳しい状況が続く。
15. **＜ 茨 城 県 製材 ＞**
国産材原木は、品薄感が強まり値上がりが続いていることから製品の値上げを行うところもあるものの、秋需要と呼ぶには盛り上がりに欠けている。
16. **＜ 東 京 都 包装資材製造業 ＞**
業界としての景況が僅かではあるが好転し、受注が増えてきた。現場作業員不足により、外国人を採用して対応している企業が増えている。

17. **< 熊 本 県 一般製材業 >**
全体的な雰囲気はあまり変わらず、原木価格は高値安定している。製品価格は横這い推移のため採算面では厳しい環境下にあり、必要量の原木確保と人材確保が課題。
18. **< 宮 崎 県 プレカット >**
11月の加工実績は10月に続いて好調なものとなったが、短納期の物件が重なることが多くなり、納期を守るのに苦労している。年末に向け納期の確保が更に大きな課題となりそうである。

紙・紙加工品製造業

19. **< 茨 城 県 段ボール >**
前年に続き、中国への段ボール用古紙輸出増加により国内の古紙が不足し、仕入価格が上昇している。この状態が続くと、収益悪化は避けられない状況である。
20. **< 群 馬 県 紙製容器製造業 >**
9月から続く天候不順によりまったく不調。古紙事情や燃料等の値上げに伴い大手原紙メーカーが再度の値上げを発表しているため、製品価格への転嫁が遅れ、より一層収益が悪化することが予想される。
21. **< 愛 知 県 段ボール >**
材料費等値上げ等の諸事情を説明し、ユーザーに価格改定を依頼しているが、あまり進展がなく収益が悪化している。用途別需要は、ギフトの出だしが悪く、土産物関係も定番品の動きが悪い。
22. **< 三 重 県 紙器段ボール >**
10月に続き昨年を上回る生産量を確保できた。段ボールシートの値上げも交渉も本格化し、一部は12月上旬より10%~15%の上昇で決着。これからユーザーに対する値上げ交渉が本格化する。
23. **< 京 都 府 パルプ・紙・紙加工品製造業 >**
シートメーカーの値上げが本格化するもケース値上げの動きがない。材料価格は上がるものの製品価格への転嫁が遅れている。
24. **< 愛 媛 県 紙製品 >**
製紙メーカーの紙の値上げは20%~10%を強行する姿勢を見せている。できない場合は最終製品を生産しない覚悟でいる。既に一部そういう動きが出ており、市場在庫も大幅に減少してきている。

印刷

25. **< 福 島 県 印刷・同関連業印刷 >**
各社とも前年売上を上回るところが少なく、業界としては厳しい状態。年明けからの用紙値上がりの発表があり、収益面でも厳しさを増してくると予想。
26. **< 東 京 都 金属印刷業 >**
他素材容器（紙、PET等）との厳しい競争が続いている。また、ガス・電気・諸資材の高騰による収益の悪化や、小ロット・多品種化によるコストアップが課題である。
27. **< 富 山 県 印刷業 >**
値上げが未浸透だった印刷用紙（薄紙）について、来年1月1日出荷分より10~20%の値上げを製紙各社が発表。更なる収支悪化に繋がると予想される。
28. **< 三 重 県 印刷 >**
年末に向けてパッケージやチラシ関係の需要は伸びているが、その他一般の印刷物は価格競争等で厳しい業況が続いている。年賀状印刷は昨年以上に受注が減少している。
29. **< 兵 庫 県 印刷・同関連業印刷 >**
夏の台風災害等の影響以降、景気の上向きを感じられず、11月も例年の仕事を維持するのが精一杯の状況だった。来年は用紙価格の20%前後の値上げや消費税増税が控えており、一層の低迷が懸念される。
30. **< 愛 媛 県 印刷・同関連業印刷 >**
業界の景況は昨年に比べあまり変化なく推移している。12月より印刷用紙が10~20%値上がりした。値上がり分を印刷料金に上乗せするのは難しく、印刷業界はその対応策に苦慮している。

化学・ゴム

31. **< 神 奈 川 県 石油製品 >**
8月お盆明けごろからガソリン出荷量は大きく落ち込んでいたが、10月後半から原油価格が下がり、ガソリン価格も下げ傾向になったことから、出荷量も回復傾向に転じた。
32. **< 大 阪 府 セルロイドプラスチック製品製造業 >**
前月比では25%アップ、前年比では6%アップと稼働率は上昇している。月別では上向きであるが、直近2年間は低調であり市況的には鈍い状況には変わりがない。
33. **< 和 歌 山 県 化学工業 >**
対前年同月比では、医薬中間物、高分子並びに精密化学品の伸びで、出荷量及び出荷額がともに20%超増加。原材料費の高騰が続き、製品価格への転嫁でようやく収益確保の組合員も多い模様。
34. **< 島 根 県 プラスチック製品製造 >**
受注自体は堅調だが、成型材料の入手性悪化に伴う生産調整の動きや継続的な材料価格高騰が業績に悪影響。引き続き米中経済制裁の影響も感じており、来年に向けて景気悪化の予測が拭えない状況。

35. < 岡 山 県 ゴム >
業界の景況は堅調だが、原材料価格や労務費の上昇などを主因とし収益状況は悪化している。今後もしばらくこの傾向が続く見込み。
36. < 広 島 県 プラスチック製品製造業 >
平成30年7月豪雨以降、今月は災害前の稼働状況に戻っている。原油高が続く原材料（樹脂や金属類）が少しづつ値上がりしているが、販売価格に転嫁することは難しい状況。

窯業・土石製品製造業

37. < 山 形 県 窯業・土石製品製造業 >
一部では災害需要の見込みがあるようだが、総じて受注が悪化傾向。原材料やトラック運賃などの高騰が予想され、収益への影響が懸念される。また、人手不足が深刻になってきている。
38. < 群 馬 県 セメント・同製品製造業 >
各社生産量が上向き始めた様子がうかがえるが、ピーク時に合わせた雇用ができず少人数で運営している状況。臨時雇用が困難なため受注調整が必要な組合員もあり、海外の労働力に対する期待感がある。
39. < 東 京 都 砕石製造業 >
業界として過積載防止の徹底や働き方改革への対応に取り組んでいるものの、これらに掛かるコスト増を販売価格に転嫁することができない現状にある。
40. < 石 川 県 粘土かわら製造業 >
1年を通して燃料費の高騰が収益を大きく圧迫している。新築、葺き替え、修理の需要はあるが、対応する屋根工事従事者が減少しているため、瓦出荷枚数に影響がある。
41. < 三 重 県 伊賀焼 >
今月は天候にも恵まれ、またガソリン価格の値下げの影響もあって、伝統産業会館・古陶館双方の入館者数及び売上が昨年を上回った。
42. < 大 分 県 コンクリート製品 >
災害復旧工事により今年度工事分も加わって売上高は増加したが、今後の一般的道路工事事用品の需要見込みが立たないことや担い手不足を訴える組合員が引き続いており、大きな懸念材料となっている。

鉄鋼・金属製造業

43. < 秋 田 県 機械・金属 >
多少のバラツキはあるものの、各社とも収益状況は好調を維持。一部で原材料不足などによる遅れが出ているところがあり対応に苦慮している。各社とも100%以上の稼働で忙しい年末となりそう。
44. < 東 京 都 金属熱処理業 >
全体的には堅調であるが、米中関係の悪化により、建設機械やロボット関係への影響が出てきている。免震ダンパーの不正や自動車メーカーのリコール問題もあり、先行きが不透明な状況である。
45. < 新 潟 県 鉄骨製造業 >
全グレードで高稼働率を維持しているが、材料価格の上昇により利益幅が小さくなってきている。材料・ボルトの納期が大幅に遅延しており、工程管理を含めた工場運営に苦慮している組合員が多い。
46. < 岐 阜 県 メッキ >
前年同月よりは受注量及び売上が増加している所が多くなっている。先月の全鍍連全国大会でも受注量が伸びている所が多くなっているとの報告があった。国際情勢により上下があるものの概ね安定している。
47. < 福 岡 県 鋳物・鋅鉄業 >
受注好調企業の受注ベースが伸び悩んできた。大多数が来春以降の見通しを厳しく見ており、今後の景気動向を注視している。
48. < 大 阪 府 鍛造業 >
生産量は前年同月比は113%で24ヶ月連続でプラスとなり、好調が続いている。用途別においても全て前年同月比を上回っている。一方で、依然として材料入手難、人材不足が続いている。

一般機器製造業

49. < 石 川 県 機械工作钣金加工 >
11月の工作機械売上について前年同月比が83.2（内需が106.3、外需71.1）となり、2か月連続で100を下回った。要因として原油高騰による消費低下と米中の貿易制裁がある。
50. < 福 井 県 機械工業 >
前月に引き続き受注状況は好調を維持しているが、冬場を迎え先行き不透明感が生じている。人員の不足は変化がなく、長期的な懸念材料となっている。原材料の仕入コストも依然上昇傾向にある。
51. < 長 野 県 一般機械器具製造 >
中国・北米の景気が後退しつつあることの影響から、生産にブレーキをかける取引先が少し増えている。原材料・工具値上げが続いており収益を圧迫している。
52. < 愛 知 県 機械器具 >
自動車部品の堅調さに比べ、家電部品は不調が際立つ。生産体制を見直す必要に迫られている。

53. < 三重県 機械器具 >

先月に引き続き、前年比で収益が悪化している。昨年が国内外の需要が旺盛だったということもあるが、先行きを懸念している。

54. < 大阪府 印刷製本機械製造業 >

ものづくり補助金の影響からか受注状況が大きく好転している。ただし、補助金が一巡したのちの余波が気になる。

電気機器製造業

55. < 東京都 配電盤製造業 >

例年にも増して、設備操業度が目一杯の状況。東京2020オリンピック・パラリンピック関連等で仕事が一気に集中し始めている印象。

56. < 山梨県 電気機械器具製造業 >

受注は確保できているが、人手不足により残業等が増加。売上高の増加以上に人件費が高んでいる。働き方改革による取り組みは経営を圧迫しかねないと懸念している。

57. < 長野県 電子機械器具製造業 >

11月の業況に大きな変化はないが、「比較的にゆるやかな後退」と認識している。

58. < 静岡県 電気機械器具製造業 >

空調機、特に業務用の生産は高水準で推移しているため、関係する組合員は繁忙状態にある。人手不足対策には苦慮している。

59. < 京都府 電機機械器具製造業 >

受注増のなか負荷に対応する人材の不足は深刻な状況に至っており、部材の調達リードタイムの延伸と相まって客先納期対応に苦慮している。

60. < 広島県 電気機械器具 >

売上高は前月比16.3%増加。前年同月比は1.6%減少。取引先からはコストダウン要請があるが、人件費が上がっており厳しい状況。最低賃金の上昇が経営を圧迫している。

輸送用機器製造業

61. < 岐阜県 輸送用機器 >

航空機需要は小型民間機を中心に確実に拡大しているものの、主要後継機の本格生産が少し先になることから操業低下が続き、平成30年度上半期の売上高は対前年同期比約5%のマイナスとなった。

62. < 静岡県 輸送用機械器具製造業 >

組合員企業は総じて受注が安定しているが、働き方改革施行に対応するための構造変革と仕組みづくりが喫緊の課題となっている。

63. < 愛知県 輸送機器 >

自動車関連を中心に多忙な事業所が多く、設備機械関連も順調な年となった。どの企業でも雇用問題が一番の問題となっている。最低賃金もアップし、経営者にとって課題が多い。

64. < 三重県 輸送機器 >

一部の機種で繁忙感はあるものの、全体としては前年並みの稼働であった。大手部品メーカーでは今期計画を下方修正するところもあり、今後については景気の後退感がある。

65. < 島根県 自動車部品・付属品製造業 >

売上額は前期に比べ-1%となった。大雨の影響は治まり、売上も安定してきたが、12月は売上が減る見通しが出ており注意が必要。

66. < 愛媛県 造船 >

米中貿易摩擦で世界経済の先行き不透明感が強まり、船舶への新規投資は進みにくい状況。韓国、中国勢との競争も続いており、造船業が回復軌道に乗るにはまだ時間がかかりそう。

その他の製造業

67. < 福島県 再生資源 >

11月も古紙の高値を維持しているが、輸出古紙の調整で12月以降下落の見通し。鉄スクラップも11月に入り軟調傾向で推移。今後はゴーンショック、鉄鋼データ改ざん問題で需要減が懸念される。

68. < 東京都 靴製造業 >

ファッション業界は不況下にあり、業界全体に諦めムードが蔓延している。自主廃業を検討している組合員も増加している。

69. < 神奈川県 工業中心の複合業種 >

引き続き人材確保には苦労しているが、海外研修生を受け入れる企業が増えてきた。一方、地域内の住宅、マンションの建設も消費増税の駆け込みが急速に増えている。

70. < 石川県 プラスチック製品製造業 >

売上は増加したが、材料の仕入価格上昇などの影響または人件費の上昇などで収益比率の悪化が続いている。

71. **< 愛 知 県 アウトソーシング >**

国内自動車販売数も前年を上回る実績だが、メーカーや車種により違いがある。年度末に向け雇用人員増を見込んでいるが、採用はかなり厳しい状況が続く。

72. **< 長 崎 県 量製造業 >**

前年同月比において売上高は変化なし、収益状況は悪化、資金繰りは変化なし。置床、置表、副資材の値上げにより、収益の悪化が目立つ。

《非製造業》

卸売業

73. **＜大阪府 スレート卸売業＞**
出荷量（売上高）は前年同月比433.8%と大幅な増加が続いている。9月初めの台風21号の特需が続き、年内で処理仕切れない状況である。
74. **＜群馬県 各種商品卸売業＞**
依然として人手不足感が強い。すでに複数税率に対応するために多額のコストを要している組合員もあり、軽減税率に対する懸念や反対論が強い。
75. **＜千葉県 総合卸売＞**
家庭用紙製品（ティッシュ等）について、今春メーカーが出荷価格を約10%引上げたが、卸売から小売への転嫁が厳しく、夏場以降の輸送コスト増、人件費増等により採算性が低下している。
76. **＜東京都 再生資源卸売業＞**
古紙の市況が上向き始めた。中国とアメリカとの間で経済摩擦が生じている中、日本の古紙の輸出価格が急上昇している。しかし、年末年始の繁忙期に向けて短期アルバイトを募集しても人が集まらない。
77. **＜神奈川県 料理材料卸＞**
売上は前年と変わらないものの、同業他社間の競争が厳しく、収益の悪化が続いている。加えて、燃料費や人件費の上昇、人手不足の常態化が、各組合員の経営を圧迫している。
78. **＜沖縄県 青果卸売業＞**
全国的に気温の高い日が続き、野菜の生産が回復。11月後半より出回りが増加しており卸売価格の低下（値崩れ）が出ている。

小売業

79. **＜北海道 燃料＞**
原油価格はこれまで同様乱高下し、元売仕切価格についても先行き不透明感が否めないなど、石油販売業者にとっては依然厳しい不安定な経営状況が続いている。
80. **＜千葉県 小売＞**
消費者の財布の紐は固く、食品を除く物販は低迷が続いている。来月のクリスマス・年末セールに期待している。
81. **＜東京都 衣料品小売業＞**
気温の高い日が続き、アウター衣料を中心に冬物が売れず、売上高は大きく下がった。
82. **＜神奈川県 青果＞**
11月売上高は、前年同月対比13%の減少。天候も安定し生育が順調であったので市場に商品がダブつき、価格が低下したのが要因。
83. **＜滋賀県 ショッピングセンター、共同店舗＞**
休日が前年比1日減のうえ、高温や競合店増加による集客低下、一部店舗の急激な売上減少や退店影響もあり、昨対売上高は95.9%、客数92.3%、客単価103.9%となった。
84. **＜広島県 石油販売＞**
原油価格が高騰から一転、急落となっている。このため支払サイトが長い社は資金繰りが厳しくなっている。また、暖冬であるため灯油及び冬用タイヤ需要が伸び悩み、石油販売業者にとっては厳しい状況。

商店街

85. **＜岩手県 一関市＞**
寒さが遅く、冬物の出足はきわめて悪い。
86. **＜岐阜県 大垣市＞**
今月は今年度最悪の景況感であった。イベント開催の時には人出は見られるが、顧客に購買意欲が見られない。消費税増税やそれに関する多くの不安を煽る論調の影響か、飲食業も不調であった。
87. **＜愛知県 碧南市＞**
シャッターが下りている店をよく見かける。店主が高齢のため店を閉めることが多く、厳しい状況の中、後継者不足も否めない。
88. **＜奈良県 県下全域＞**
にぎわいが維持されているが、今後の消費税増税などで、はたして地元住民の消費動向がどうなるのか大きな不安を抱えて年末を迎えることになる。
89. **＜山口県 萩市＞**
商店街のイベントがほぼ終わったが、期待していたような賑わいにはならなかった。この状態での消費税増税を不安視する声があちこちで聞かれる。

90. < 香 川 県 丸亀市 >
11月の業況は特に悪かった。消費実態は悪化していて、人手不足から起きている人件費や物流費の上昇、原材料費の値上がりなど、収益のマイナス要因が目白押しの現況にある。

サービス業

91. < 北 海 道 ソフトウェア >
道内中小・中堅企業の慢性的な人手不足の解消手段として、ITの導入による生産性の改善があるが、企業の根強い費用対効果への疑問やIT人材の不足が主な理由でなかなか踏み切れない。
92. < 宮 城 県 湾岸旅客海運 >
紅葉シーズンのこの時期としては暖かく、イベントや好天に恵まれた下旬の3連休などの効果で、前年同月より旅客数、売上ともに増加。11月の旅客数・売上は東日本大震災以降の最高数値となった。
93. < 栃 木 県 理容業 >
高齢者の廃業による組合脱退が増加する中、若手組合員の組合離れも目立ってきている。
94. < 愛 知 県 警備 >
先月に続き前年同月を上回る受注売上を達成しており、好調ではあるが、人材不足のための受注ロスが増加傾向にあり、人材確保が急務の状況である。
95. < 京 都 府 自動車整備業 >
少子化で整備士のなり手が少なく、また、若者の車離れが進みますます厳しい状況である。
96. < 鳥 取 県 観光業 >
例年より気温が高く天候が安定していたため、売上高が前月比で増加。前年同月比では売上高が減少し収益状況は悪化。

建設業

97. < 青 森 県 一般土木建築 >
働き方改革により作業時間に制限があるため、作業（工期）の遅れなどの問題が出ている。
98. < 埼 玉 県 鉄骨工事業 >
天気も安定しており、建設業者からの受注は順調であるが、個人からの受注は競争が激しく大変である。
99. < 岡 山 県 左官 >
コストの低減には繋がる傾向にあるが、職人不足が全国的に蔓延しており景況は悪化傾向にある。人手不足が深刻であり、高齢者（60歳以上）の頑張りで業界が持っている。
100. < 広 島 県 一般土木建築工事業 >
西日本豪雨による災害復旧工事の入札を国・県・各自治体が多数執行しているが、事業者は労働者不足等により手持ちの受注案件で手一杯のため、入札不調が相次いでいる。
101. < 愛 媛 県 基礎工事 >
人材の不足は相変わらずで、需要が低下しているにもかかわらず、供給が追いつかない状況が続いている。現状でも120%の稼働率で供給が追いつかない状態であるため、働き方改革への対応は不可能。
102. < 熊 本 県 鉄骨工事業 >
ボルト不足を始めとした材料入手難に組合員は苦労している。また、製品を運ぶトラック手配やドライバー等の人材不足にも困っている状況となっている。

運輸業

103. < 宮 城 県 軽運送 >
働き方改革による一般貨物運送業者のドライバーへの影響は大きい。そのため、個人自営業が多い軽貨物運送業者は一般貨物運送業者ができなくなった時間外などの荷物の輸送が増えてきている。
104. < 秋 田 県 トラック >
11月も順調に推移している。売上・収益ともに前月より増加しており、前年同月比でも売上は増加となっている。燃料価格が値下がりしたおかげで収益状況は多少回復している。
105. < 富 山 県 道路貨物運送業 >
軽油価格について、前月に比べて大幅に値下がりしたが、前年同月比は+10円/ℓとなり、収益状況は悪化のまま。
106. < 滋 賀 県 貨物運送 >
荷動きが活発で売上が増加基調。コスト増に伴う運賃値上げ交渉が進んでいるが、運転者不足による車両不足は恒久化。
107. < 京 都 府 道路旅客運送業 >
タクシー事業者において11月度は観光のピークであり、各々売上も好調であった。ただし、乗務員不足は相変わらずであり、一人ひとりの売上は増加しても会社全体の売上増加には至らない。

108. < 高 知 県 一般貨物自動車運送業 >

燃料価格は数円の値下げで少し落ち着いた。組合実績は昨年比ほぼ同額であるが、業界のドライバー不足は深刻化しており、12月の繁忙期に影響がでそうである。

その他の非製造業

109. < 秋 田 県 砂利 >

ダム関連及び公共工事等の仕上げ等で骨材の荷動きは活発であった。

110. < 神 奈 川 県 不動産 >

マンションやアパートは空室が増加しており借り手市場になっているが、賃貸需要は「賃料はあまり気にせず大型の1Kや1LDKを探す人」と「狭くても賃料にこだわる人」に二極化している。

111. < 兵 庫 県 ディスプレイ業 >

売上は、前月、前年に比較すれば少し増であるが、収益では少し悪化している。資材及び人件費の影響を受けている可能性が予想できる。

112. < 兵 庫 県 物品賃貸業 >

公立系得意先への予備予算の為の見積もり時期であるが、求められる見積もりについては、値上げを話しやすくなる感覚を感じる場面が出てきている。

113. < 広 島 県 不動産業 >

前月比、前年同月比とも一般評価がやや増加したため売上は好転したが、景況感は依然やや悪い状態が続いている。公的評価が減少している。

114. < 鹿 児 島 県 石油販売業 >

販売業界のマージンは良化傾向を示している。しかし、一方で暖冬による悪影響で、灯油販売は、絶不調で資金繰りを圧迫した。